

# JANPU-CBT 事業の開始に向けて

JANPU-CBT は、看護学教育モデル・コア・カリキュラム（令和6年度改訂版）（以下「看護学教育コアカリ」という。）に基づく学修成果の可視化（学生評価）、教育評価、カリキュラム評価、教学マネジメント、認証評価対応を接続する教育の質保証に向けて、2028年度に事業として開始する予定である。

JANPU-CBT の全体像とロードマップ、受験する学生及び会員校にとってのメリットを概説する。

## 1. JANPU-CBT の全体像

- JANPU-CBT は、一般問題システム、臨床判断問題システム、査読システム、保存・管理システム、実施基盤、事後評価システムを一体化し、作問から教育改善までを循環させる構想である。
- 看護学教育コアカリ第4階層の資質・能力に対してブループリントを設定し、Knows/Knows howを中心とする到達度評価に加え、臨床判断の思考過程を問う問題をも包含できる。
- JANPU-CBT の付加価値は、学修成果の可視化・教育評価・カリキュラム評価と改善、全国データに基づく質保証を同時に実施できることである。
- 既に、「看護学教育コアカリに基づく到達度とブループリントによるテスト設計」、「看護学教育コアカリに基づく問題作成支援システム（一般問題・臨床判断問題）」、「査読システム」が構築された。
- 2026年度に、「保存・管理システム」、「事後評価システム」を構築する予定である。これによってJANPU-CBT の質保証の基盤が完成する。

学生への価値	大学への価値	JANPU への価値	社会への価値
弱点領域を可視化し補強学修へ接続	DP・モデルコアに基づく教育評価・カリキュラム改善	全国データによる問題・尺度・評価設計の改善	外部評価・認証評価対応の根拠データ

## JANPU-CBT 全体像

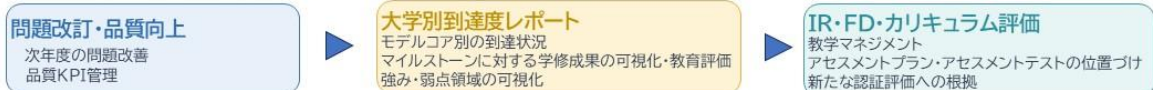
### 一般問題システム/臨床判断問題システム・保存システム・事後評価システム

看護学教育モデル・コア・カリキュラム(令和6年度改訂版)準拠のCBT基盤を、作問・査読・実施・事後評価・教育改善まで一貫して接続

#### JANPU-CBTの品質保証基盤



#### データに基づく教育改善サイクル



付加価値: 学生の学修成果の可視化(弱点補強)・大学の教育評価・大学のカリキュラム改善・JANPU全国データによる質保証を同時に実現

## 2. JANPU-CBT 本格化ロードマップ（2025-2028年度の展開）

- 2026年度は、臨床判断問題、査読・修正、査読体制、事後評価システムを整備し、大学別レポートの設計を進める。
- 2027年度は文部科学省委託事業における全国実証として全会員校を対象に検証する。
- 2028年度から JANPU-CBT 事業として開始する。
- 事業として開始するために必要な初期費用は JANPU 予算で対応する。
- 事業を継続運用するために、受験料（3,000円～5,000円）を徴収する。そのために、受験する学生及び会員校にとってのメリットを明確にする。

### JANPU-CBT 実証・本格化ロードマップ(2025-2028)

学生評価・カリキュラム評価・認証評価対応を支える全国共通の教育質保証インフラへ発展させる、2028年度本格開始

#### 2025年度

- ・看護学教育コアカリの到達度に基づくテスト設計・ブループリント作成
- ・看護学教育コアカリにもとづく一般問題の作成と査読システム
- ・JANPU-CBT実証事業拡大(参加校増加)
- ・Knows / Knows how対応
- ・一般問題作成・査読
- ・実証:27校/1,632名参加

#### 2026年度

- ・臨床判断問題へ拡張
- ・査読・修正システム
- ・査読体制の基盤構築
- ・事後評価システム構築(全体・大学別)
- ・8・9月実証に搭載
- ・大学別レポート設計(モデルコアに基づく可視化)

#### 2027年度

- ・文部科学省委託事業【全国実証事業】
- ・事後評価システム検証(学生個別)
- ・文科省テーマA 事業2-1
- ・全会員校対象
- ・大学へデータ還元

#### 2028年度

- ・JANPU-CBT 本格開始
- ・事後評価レポート(大学と学生個別)
- ・各大学のアセスメントプランへ受験料収集・継続運用
- ・IR還元と認証評価対応
- ・大学レポートと学生レポート

#### 質保証と付加価値

- 学修成果の可視化(弱点補強)
- 大学カリキュラム評価
- JANPU問題・尺度改善
- 外部評価の根拠
- 入学前や臨床データと紐づけ

#### 2025-2026:設計・妥当性の確立

モデルコア第4階層との対応を明示し、一般問題・臨床判断の作成、自動査読・自動修正・専門家による査読基準に基づく査読、問題管理

#### 2027:全国で実証

全国データで項目・尺度を精緻化し、大学別フィードバック【事後評価】を検証する

#### 2028以降:制度対応・質保証へ

学生別・大学別レポートを教学マネジメント、IR、認証評価へ接続する

最終像:マイルストーンに基づく教育評価、外部アセスメント結果を教育改善へ戻す「看護学教育の質保証サイクル」

## 3. 受験する学生及び会員校にとってのメリット

- 試験結果について、学生は個別のレポートを入手することができ、会員校は受験した学生全員の成績及び分析結果を入手することができる。
- 問題作成支援システムを利用して問題原案を作成することから、JANPU-CBT の試験問題はすべて看護学教育コアカリ【資質・能力】にタグ付けできている。そのため、各学生の試験結果から、獲得された【資質・能力】を可視化することができる。
- 学生は、個別のレポートによって、獲得が十分な【資質・能力】と不十分な【資質・能力】を見出すことができ、ポートフォリオとの連動も可能となり、学修上の目標を設定して自己研鑽することができる。
- 会員校は学生全体を対象に、獲得された【資質・能力】が可視化されることから、アセスメントプランにおける「教育課程（学位プログラム）レベル」の評価法として位置付けることができる。このレポートから、各会員校の学生が獲得不十分な【資質・能力】について、カリキュラム改正あるいは「授業科目レベル」の見直しなど教育改善につなげることができる。
- 各会員校は、教学マネジメントとして、教育の質向上のための組織、PDCA サイクルを回すためのシステムと実績が求められている。これらに位置付けることが可能となる。
- JANPU-CBT 事業は、事後評価システムにより、問題の品質管理、大学別フィードバック、学生別フィードバック、IR・FD・カリキュラム評価、認証評価対応を一貫して支援することにつながる。